日本書紀編纂 1300年 奉祝 若宮八幡社 社報

金鷹山（きんたかやま）

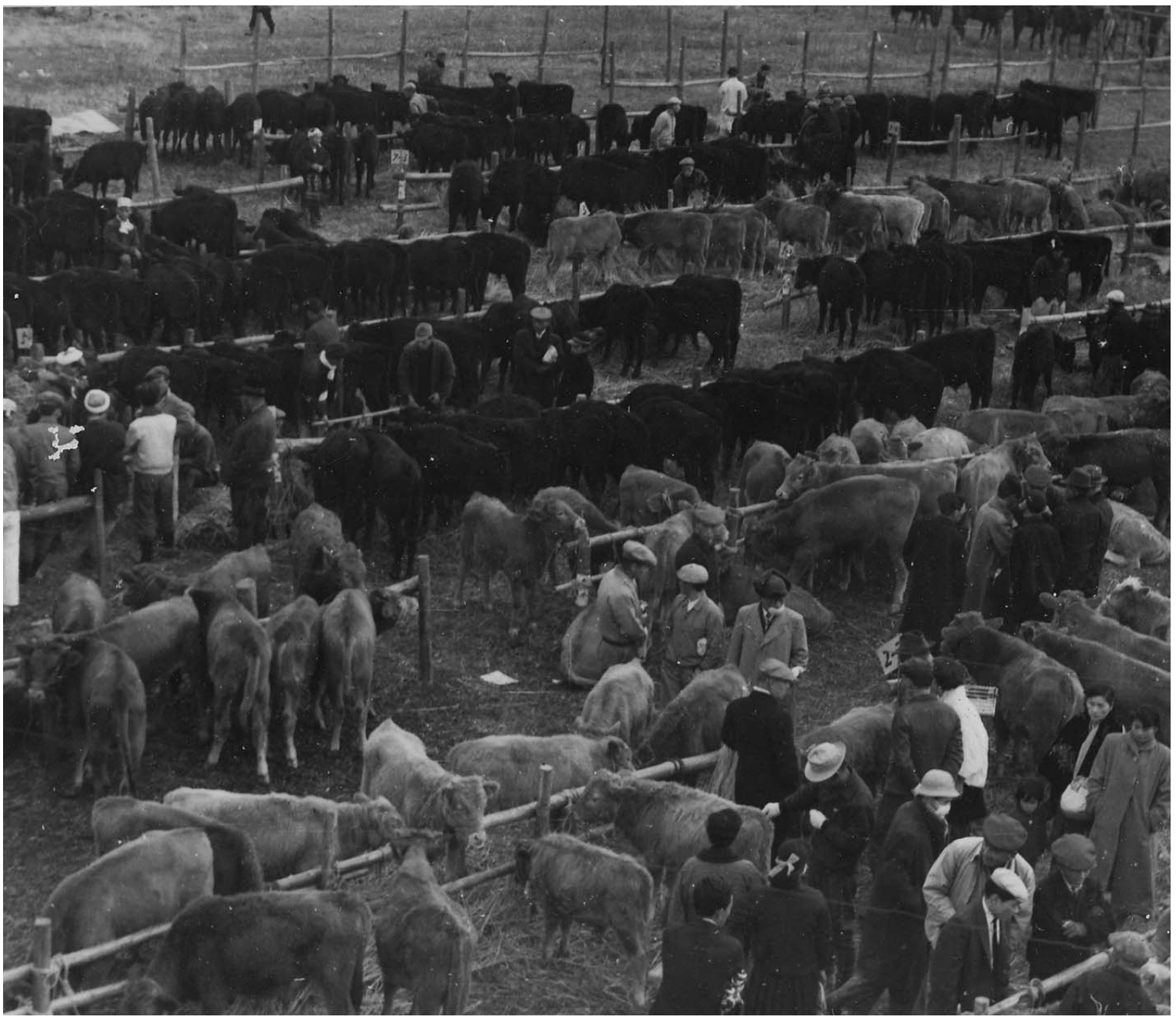
令和2年（2020）12月1日発刊
通巻第10号

発行所　若宮八幡社社務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地
発行者　宮司　紀田兼宣
電　話　080（5503）3488

金鷹山 若宮八幡社　検索

神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう

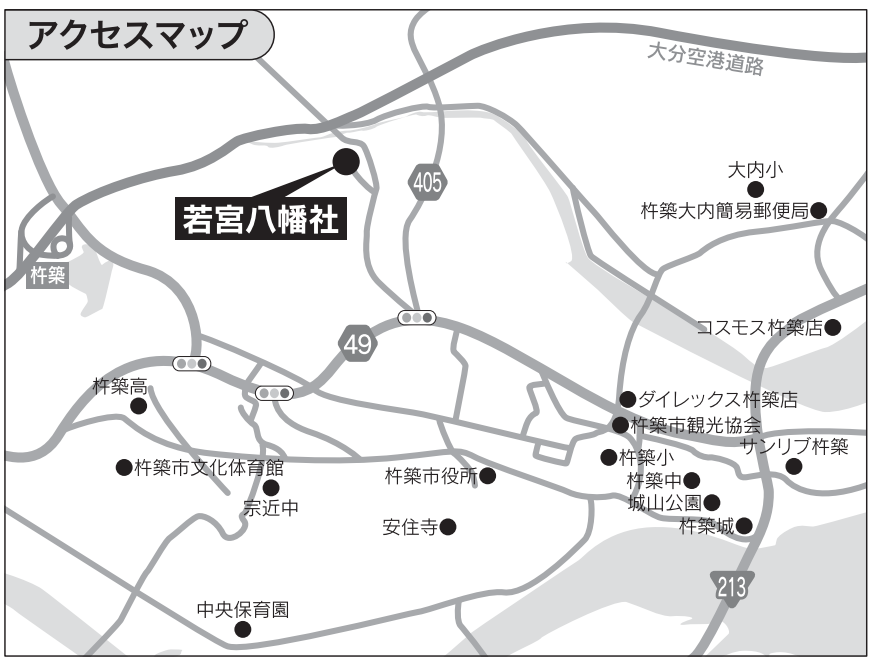


昔懐かしい若宮牛馬市

◇例大祭のお知らせ◇

感染症拡大防止のため、本年に限り神輿（みこし）の渡御（とぎょ）（お下り・お上り）は中止させて戴きます
尚、感染症の一日も早い終息を祈念して来たる十二月五日(土)午前十一時に花火を打上げます（詳細は三頁をご覧下さい）

神賑　池坊別府中央支部奉納　生け花展示



若宮八幡社
祈願祭・出向祭承りについて

公式HPは 金鷹山 若宮八幡社 で検索下さい

《祈願祭》若宮八幡社の社頭にて行います
・初宮詣・安産・子授け・七五三・厄除け・車の交通安全
・受験合格・赤ちゃんの名付け

《出向祭》宮司が伺い御地で奉仕申し上げます
・地鎮祭・上棟祭・井戸昇神祭・入居前清祓・竣工清祓
・神葬祭（神道でのお葬式）ほか

責任役員(総代長)就退任の報告

森昭氏が退任され、新たに吉水謙二氏が就任する

この度、令和二年三月末日を以て責任役員の改選があり、永らく責任役員・総代長をお務めになられた森昭氏が退任し、翌四月一日に吉水謙二氏(総代・宮司区在住)が、責任役員・総代長に就任致しました。

紙面をお借りしまして、責任役員・総代長の就退任のご報告を行うと共に、森昭様には多年に亘るご功績に感謝申し上げ、また吉水謙二様には引き続き若宮八幡社の護持運営のためにご尽瘁を賜りますようお願い申し上げる次第にございます。

※若宮八幡社の規則により、責任役員を三名選任することとしており、そのうち一名が代表役員として宮司が就任、残る二名を総代から選任しております。

就任のご挨拶

責任役員・総代長　吉水謙二

この度、多くの方々のご推薦を戴き、若宮八幡社責任役員を有難くお受け致しました。皆様方のご支援、ご厚情を賜り、この大事を果たしたく努力いたす覚悟です。

私は、若宮八幡社の地元宮司区で生を受け、十八歳の春、建設会社に就職し、杵築を離れました。忘れもしない昭和三十六年三月、父に連れられお宮に参拝したことが、思い出されます。

本殿に於いて、三十二代紀田兼量宮司に、門出の平安をご祈願して戴き、宮司の笑顔と凛とした所作に触れ感激しました。

以来、大阪・東京・横浜・博多と転勤しながら職務に励んできました。郷里を四十三年間留守にし、平成十四年に無事定年退職を迎え戻って来ました。

地域の皆様との温かい触れ合いの中で、郷里にすぐ溶け込むことができ、今日に至っております。

お宮は、杵築市四十行政区の氏神様で、市民お一人お一人の鎮守様です。三十四代紀田兼宣宮司、そして総代の皆様方と力を合わせて、神社の運営に寄与していきたいと思います。何卒宜しくお願い申し上げます。

退任のご挨拶

森　昭

退任にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

私は平成十六年に若宮八幡社の総代になりました。何もお宮のことが分からなかったのですが、坂本先輩に教えてもらいながら奉仕をして参りました。

坂本先輩が退任されて、その後を内野先輩が継ぐようになり、その時に当時の中井研一宮司が、私に『あなたもこの度、責任役員ですので、よろしくお願いします』とおっしゃり、責任役員として四月六日の御田植神事を奉仕したことが懐かしく思い返されます。

私も北浜区長としても同時期に奉仕しており、何かと出ごとが多く大変でもありました。

速見支部の旅行や、年に一回の大分県神社庁国民精神昂揚合同研修会にも出席させて戴いたことも勉強になりましたが、中でも一番の思い出は、若宮八幡社の壱千参拾年祭の記念事業での神殿修理・社務所御旅所の修繕や、祖霊社の新築工事のことであります。

令和二年三月を以て退任するまで、十六年間に亘り総代の皆様と色々な奉仕が出来ましたことに感謝しております。有難うございました。

多年に亘り若宮八幡社の護持運営に多大なるご功績を賜りました二名の方が、この度表彰の栄に浴されましたので、茲にご報告致します。

〈森昭氏〉

特別功労表彰

若宮八幡社の責任役員・総代長として多年に亘り宮司を扶け、神社の発展に寄与され、また平成二十五年度からは三年度に亘る「御鎮座壱千参拾年記念事業」の実行委員長を務められた。

〈下原晴記氏〉

大分県神社庁事績表彰

浜八人として多年に亘り、例大祭神輿渡御に奉仕、また市内南杵築鎮座の貴布禰社の責任役員としてもご奉仕戴いている。

尚、お二人につきましては、来る十一月二十三日(月・勤労感謝の日)に斎行される新嘗祭に於きまして顕彰申し上げます。

【兼務神社だより】

鴨川鎮座八坂神社に、竹繁正弘様から賽銭箱の奉納があり、去る三月八日(日)春大祭にて奉納奉告祭も併せて斎行いたしましたので、紙面にてご報告申し上げます。

鴨川八坂神社に奉納された賽銭箱

「若宮八幡社」神職・総代名簿

宮司	紀田兼宣
責任役員・総代長	吉水謙二 宮司区・馬場尾区・守末区・中ノ原区
責任役員・兼総代	阿部重徳 船部区・大片平区
総代・一般会計	本多泰久 宗近区・錦江区・杉山区・東下司区・西下司区・下原区・中平区
総代・斗初穂会計	井上　剛 南台西区・南台東区・北台区・西上区・仲町区・天満区・弓町区
総代	田邉益實 城山区・塩田区・錦城区・北浜区・中央区・谷町区・魚町区・据場区
総代	藤原靖浩 煙硝倉区・西新町区・札ノ辻区・北祇園区・南祇園区・古野区
総代	秋山太郎 東溝井区・中津屋区
総代	矢野　諭 二ノ坂区・西溝井区
総代	越海日文 岩谷区・鴨川区

例大祭のお知らせ

神賑 池坊別府中央支部奉納 生け花展示

感染症拡大防止のため、神輿の渡御(お下り・お上り)は中止と致します。あしからずご了承ください

若宮八幡社の「例大祭」を下記にて斎行致します。尚、感染症の拡大防止のため神輿のお下り・お上りは行いません。神事は神社総代と代表者のみで行います。生け花展示(拝殿)はご自由に鑑賞いただけます。

記

【前日祭】
12月4日(金)午後5時　2日間に亘る例大祭の旨を神様に奉告致します

【例大祭】(花火打ち上げ)
12月5日(土)午前11時　杵築市民の安寧と感染症の終息を祈念します

【斗初穂奉納奉告祭】
12月6日(日)午後1時　下記にて奉納を承ります

【御鎮納祭】
12月6日(日)午後3時　例大祭が無事に行われたことに感謝申し上げます

【神賑　池坊別府中央支部奉納　生け花展示】
12月5日(土)～6日(日)の2日間拝殿で展示しますので、ご自由に拝観ください

尚、感染症の拡大防止のため神輿のお下り・お上り、ゲートボール大会、グラウンドゴルフ大会、みさき神楽、長寿老人交通安全祈願祭は本年に限り行いませんのでご了承下さい

①マスクを着用の上、お参り下さい
②37.5度以上の熱がある方は、参拝をご遠慮ください
③手水舎・賽銭箱・授与所など各所で感染症対策を講じてお待ち申し上げております

池坊別府中央支部奉納 生け花展示

参道に立つ斗初穂顕彰石碑

斗初穂奉納のお勧めについて

お名前を石碑に刻み顕彰致します

若宮八幡社の信仰の一つとして、氏子崇敬者の皆様方は、昔から「お初穂」のお供えをされて来ました。

若宮八幡社に於きましては、お米一斗の「お初穂」を十年間に亘り続けて奉納された方に対して、参道に石碑を建ててその篤いお志を永く顕彰して参りました。

杵築市内の多くの先人の方々が、既に斗初穂の納付が終わっておられますが、初めての方は勿論のこと、斗初穂奉納がお済みの方でも、そのお子様、お孫様またお知り合いの方々にも、広くご参加を戴き、若宮八幡社のご加護を受けられますようお勧め致します。

現在では、お米そのものの奉納という形ではなく、お米一斗を三千円に置き換えて、その三千円に十年間を乗じた三万円をもって奉納完了としておりますが、最近では十年を待たず、一括または短期間での奉納を希望される方も増えてきております。

この斗初穂のご浄財は、若宮八幡社の護持の財源として、「斗初穂特別会計」として「一般会計」とは別に経理し、来る御鎮座壱千五拾年祭に向けた積立等に有効に活用致します。

新嘗祭のお知らせ

秋の収穫をお供えしませんか

昨年は天皇陛下の御代替りの年でしたので、ご即位初めての年だけ執り行われる大嘗祭を寿ぎ、「大嘗祭奉祝祭」を斎行致しました。

本年は、例年の如くに十一月二十三日(月・勤労感謝の日)に新嘗祭を斎行致します。

つきましては、昨年と同様に、氏子崇敬者の皆様方から、秋の収穫についてご奉献を承りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

尚、奉献品につきましては、新嘗祭でご神前にお供えして、参拝者に適宜お頒ち致します。

(恐縮ながら、この新嘗祭は一般の方の参列は出来ませんのでご了承下さい)

新穀奉献イメージ

懸税イメージ

【新嘗祭斎行に当たりご奉献お願いの件】

①新嘗祭日程
・十一月二十三日(月・勤労感謝の日)

②奉献品(例)
・新米(何キロでも構いません)
神社で2キロ袋は用意しております
・懸税(かけちから　と称します)
写真の様な刈り取った稲穂です
・新酒(何升でも結構でございます)
・野菜果物
野菜と果物は十一月二十二日(日)の新嘗祭前日か当日に奉献下さい

③ご対応
・芳名につきましては、令和三年四月一日に新聞に折り込む社報「金鷹山」第十一号にて報告致します

令和三年の初詣

感染症対策を講じてお待ち申し上げます

年越大祓・新年初祈願のお知らせ

令和二年も残り僅かとなりました。

この一年間を振り返ると、感染症に始まり、また感染症で終えようとしております。

来年は一日も早く感染症が終息し、杵築市民の皆様方に元の生活様式が戻りますよう祈念せずにはいられません。

若宮八幡社では、感染症の拡大防止対策に万全を期して、また皆様方の健康を考慮申し上げ、正月の参拝を心よりお待ち申し上げております。

《正月初詣にあたり皆様方にお願い》

①マスクを着用の上、お参り下さい

②37・5度以上の熱がある場合は、参拝をご遠慮ください

③初詣は何時でもお参り戴けます

例年の時間帯として、午前十時から正午に、一番お参りが集中しますので、早朝及び午後からのお参りだと三密を避けてお参り戴けます

④手水舎・賽銭箱・授与所など各所に消毒液を設けておりますのでご利用下さい

⑤本殿前に駐車は出来ますが、支障の無い方は、鳥居前にあります「若宮広場」をご利用の上、参道を通ってお越し下さると幸甚に存じます

お札・お守り

熊手・破魔矢の縁起物

《年越大祓のお知らせ》

十二月三十一日(木)午後五時

※予約不要　参列無料(自由にお参り下さい)

令和二年の知らないうちに積み重なった罪や穢れを人形(ひとがた)・車形(くるまがた)に託して、感染症をお祓いして清々しく令和三年をお迎えしませんか?

飾らなくなった雛人形・五月人形・鯉のぼり・結納品などがありましたらお持ち下さい。お預かりして令和三年六月三十日(水)に斎行致します「夏越大祓・人形昇神祭」にて御魂(みたま)抜きの上、お焚き上げを厳修致します

《新年初祈願のお知らせ》

一月一日(金)から毎日、承りますが、年内でも祈願奉仕致します

毎時00分と30分の2回に分けて祈願致します

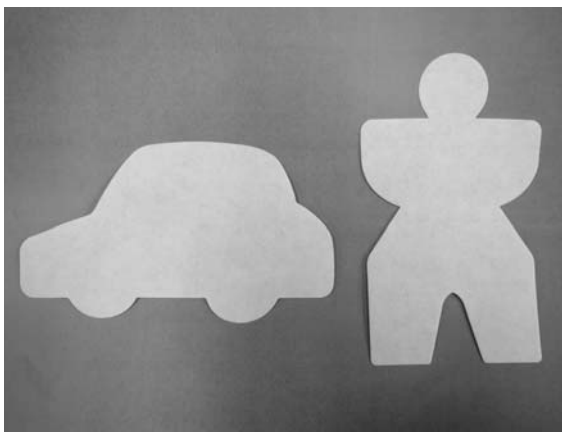
(祈願所要時間は凡そ20分です)

三密を避けるために、貴家また御社のみ単独での祈願のため、事前のお申し込みをお願い致します。

屋敷祭り出向などのため、お受けできない日時がございますので、あらかじめご了承下さい。

混雑と三密を避けて、心穏やかに新年の健やかな祈願を若宮八幡社でお受けになりますよう、心よりお待ち申し上げております

若宮八幡社 電話番号0978(62)3237



年越大祓　人形と車形

祈願のお下がり

《神宮大麻初穂料改定の件》

毎年暮れにお頒(わか)ちする伊勢の神宮(じんぐう)大麻(たいま)は、諸般の事由により左記に改定となりますので、お含み置き下さい。

小・　800円→1000円

中・1200円→1400円

大・2000円→改定なし

編集後記

紀田宮司のつぶやき

▲令和二年も間も無く年の瀬を迎える時期となり、この一年を振り返るに『感染症』に国の内外を問わず振り回された日々でもありました。▲神職としては、ただ只管(ひたすら)に毎朝の朝御饌祭(あさみけさい)で杵築市民の安寧と感染症の一日も早い終息を祈念申し上げておりましたが、このお務めは引き続き奉仕して参る所存であります。▲毎年恒例の神事は取りも直さず務める日々ですが、十一月二十三日(月・勤労感謝の日)に斎行される新嘗祭(にいなめさい)が近づいて参りました。▲「勤労感謝の日」は『勤労を尊び生産を祝い、国民が互いに感謝しあう』ことを主旨として昭和二十三年に祝日として制定されましたが、本来は秋の稔りを感謝申し上げる「新嘗祭」が全国の神社で斎行されることを寿ぐ意味もあります。▲その新嘗祭も以前は、旧暦十一月の第二の「卯(う)」の日と定められていましたが、新暦への改暦に伴い十一月二十三日となるものの、昨年の御代替りの年だけの新嘗祭である「大嘗祭(だいじょうさい)」は昔ながらに十一月の第二の卯の日(十四日から十五日)にご斎行されたことは記憶に新しいことと存じます。▲新嘗祭や勤労感謝の日に因(ちな)み、テレビを見ると食べ物に「感謝」しているのかなあ?と思うことがままあります。食べ物を「戴く」のではなく「食う」と話したり、食事の態度も帽子をかぶったまま、肘をついてのマナー違反をいい大人がしているのは誠に戴けない。▲人間は生きていくために「命」を「戴く」のであり、食前には手を合わせて『戴きます』と唱えるのです。▲本年、編纂千三百年を迎えた「日本書紀」の三大神勅にもありますように、何故日本の主食が「お米」になったのかを理解していかないと、我が国の「食」に関する未来は暗澹(あんたん)としているのでは、と感じる今日この頃です。▲氏子崇敬者の皆様方には、どうぞ嘉(よ)きお正月をお迎え下さいませ。(紀)

日本書紀編纂千三百年を寿ぐ
「三大神勅」と「若宮八幡社のご祭神」

本年、令和2年(西暦2020年)は、『日本書紀』が養老4年(西暦720年)に編纂されてより、千三百年の嘉年に当ります。日本書紀は、日本に伝存する最古の正史(国家が編纂した歴史書)で、全三十巻(ほかに一巻の系図あり)から成り、天皇陛下が天照大御神という神々を統べる大神様の子孫で、この地上世界の統治を託されたとして、爾来昨年の御代替りに連綿と続いて来ました。

日本書紀に先立つ和銅5年(西暦712年)に編纂された『古事記』は、全三巻、神代から推古天皇までの歴史を物語風に纏めているのに対し、日本書紀は天地の始まりから、初代神武天皇の即位を経て、持統天皇に至るまでの天皇家の事績と系譜を記載しており、例えば「大化の改新」や「壬申の乱」などの古代史の出来事は、そのほとんどが日本書紀に書かれており、当時の国の内外に我が国の正当な史書を編纂することが目的であったと考えられます。

広く知られている「卑弥呼」は、当時の中国の歴史書『魏志』の『倭人伝』に出ているのみなので、記紀(古事記・日本書紀)には当然、卑弥呼の「卑」の字も出て来ない一方で、卑弥呼を「天照大御神」や「神功皇后」などに当てはめる説もありますが現実的ではありません。

今回は、日本書紀編纂千三百年を寿ぎ、その一部をご紹介し、日本書紀の内容について少しでもご理解戴ければと思います。日本書紀は、「神代の上」　天地開闢・神生み・国生みによる、日本国の成り立ちから、天照大御神の天岩戸隠れ・などを経ての「巻第二神代下　天孫降臨」における『三大神勅』①天壌無窮の神勅②宝鏡奉斎の神勅③斎庭稲穂の神勅(神勅とは神様からのお言葉・お示し…との意味です)で、昨年のご即位行事の成り立ちをご理解戴き、その次に若宮八幡社の祭神である大鷦鷯尊(古事記では大雀命と表記)と菟道稚郎子の兄弟のお話しとして、「巻第十一大鷦鷯天皇(第十六代仁徳天皇)」の聖の帝が治められた仁政をご紹介致します。

これを機会に記紀に興味をお持ち戴き、若宮八幡社のご祭神に格別なご崇敬を賜りますれば、この上なき幸せと存じ上げる次第にございます。

(若宮八幡社第三十四代宮司　紀田兼宣謹記)

《巻第二　神代　下　三大神勅》

時に天照大神勅して日わく、若し然らば方に吾が児を降しまつるべしと。故れ天照大神乃ち天津彦彦火瓊瓊杵尊に八坂瓊勾玉・八咫鏡・草薙劔三種の寶物を賜い、(中略)五部神を以て配え侍らしむ。

▲葦原中津國が穏やかに平定されたので…天照大御神は、『もしそうならば、今まさに我が子を中津国に降そう』と仰った。その間に皇孫(天照大神の孫)である天津彦彦火瓊瓊杵尊がお生まれになり、天照大御神は瓊瓊杵尊に三種の神器(八坂瓊勾玉・八咫鏡・草薙劔)をお授けになられ、天児屋命(あめのこやねのみこと)・太玉命(ふとたまのみこと)・天鈿女命(あめのうずめのみこと)・石凝姥命(いしこりどめのみこと)・玉屋命(たまやのみこと)合わせて五柱の神々をお伴としてお付けになりました。

其の壱【天壌無窮の神勅】

因りて皇孫に勅して日わく、豊葦原千五百秋の瑞穂國は、是れ吾が子孫の王たる可き地なり。宜しく爾皇孫就きて治せ。行矣、寶祚の隆えまさむこと。當に天壌と窮り無かるべしと。

▲天照大御神が瓊瓊杵尊に対して、『葦原の永く久しく秋になると稲穂の稔る中津國は、吾が皇孫が治めるべき國である。皇孫(瓊瓊杵尊)よ、行って治めなさい。行け。皇統の御位が栄えるのは、まさに天地と共に終わりの無い御代である。』と仰った。

解説…太陽神である天照大御神の子孫こそが、天皇としてこの日本国を永遠に治めるに相応しいと示された神勅です。

天壌無窮の神勅

其の弐【宝鏡奉斎の神勅】

是の時に天照大神、手に寶鏡を持ち給いて、天忍穂耳尊に授けて祝ぎて日わく、吾が児、此の寶鏡を視まさむこと、當に吾を視るがごとくすべし。與に床を同じくし、殿を共にして、齋鏡と為す可しと。

▲この時に天照大御神は、ご自分の手に宝鏡をお持ちになり、子どもである天忍穂耳尊にお授けになり、祝い、『我が子よ、この宝鏡を、まさに私を見るのと同じように、この鏡と共に床を同じくして、神殿をも同じくにして、祭鏡としなさい。』と仰った。

解説…天照大御神が、三種の神器をお授けになり、この日本国でお祀りするように示された神勅です。

其の参【斎庭稲穂の神勅】

また勅して日わく、吾が高天原に所御す齋庭の稲穂を以て、また吾が児に御せ奉るべしと。

▲また天照大御神は、『我が高天原にある神田の稲穂をも、我が子に任せよう』と仰った。

解説…天照大御神が、天上の田んぼで育てた稲を日本国にお授けになったことを伝える神勅です。これにより毎年秋の新嘗祭(十一月二十三日・勤労感謝の日)に於いて、天照大御神からの賜り物であるお米の収穫感謝のお祭りを斎行することにより、お米が永らく日本人の主食として定められたのです。

爾来、初代神武天皇より百二十六代に亘り御代が受け継がれ、昨年の新帝陛下のご即位行事が恙無く執り行われましたことは、皆様方のご記憶にも新しいことと存じ上げる次第にございます。

宝鏡奉斎の神勅

斎庭稲穂の神勅

《巻第十一　大鷦鷯天皇(仁徳天皇)》

大鷦鷯天皇は誉田天皇の第四子なり。母を仲姫命と日す。五百城入彦皇子の孫なり。天皇幼くて聡明叡智、貌容美麗、壮に及びて仁寛慈恵ましまします。

▲仁徳天皇は、応神天皇の第四皇子である。母は仲姫命と申し上げ、五百城入彦(景行天皇の皇子)の孫である。天皇は幼少のころから聡明で思慮深く、ご容貌は麗しくいらっしゃった。壮年になられて、仁愛のお気持ちが強く寛容で慈悲の心をお持ちであられた。

四十一年春二月、誉田天皇崩りましき。時に太子菟道稚郎子 位を大鷦鷯尊に譲りまして、帝位即さず。

▲応神天皇の御代四十一年の春二月に、応神天皇が崩御された。この時に菟道稚郎子は、天皇の御位を大鷦鷯尊に譲ろうとなさり、天皇に即位なさろうとなされなかった。

太子(菟道稚郎子)日わく、我兄王(大鷦鷯尊)の志を奪うべからざることを知れり。豈に久しく生きて天下を煩わさむやとのたまいて、乃ち自ら死りたまいぬ。

▲菟道稚郎子は、『私は兄王(大鷦鷯尊)の志を変えることが出来ないことを知った。長生きして天下を煩わせることは出来ない』とおっしゃって、自ら命を絶たれた。

是に於て大鷦鷯尊 素服たてまつりて、為に發哀して、哭之甚慟いたまう。仍りて菟道山上に葬しまつる。

▲そこで大鷦鷯尊は、喪服をお召しになり、悲しんで、ひどく泣かれた。そして菟道稚郎子のご遺体を菟道(宇治)の山の上に葬り申し上げた。

仁徳天皇の仁政　かまどの煙り

高き屋にのぼりて見れば
煙立つ
民のかまどは
にぎはひにけり
(仁徳天皇)

元年春正月、丁丑朔。己卯、大鷦鷯尊 天皇の位に即きたまう。難波に都つくる、是を高津宮と謂う。即ち宮垣室屋垩色せず、桷梁柱楹藻飾らず、茅茨之蓋剖齊えず。

▲仁徳天皇元年の春正月三日に、大鷦鷯尊は即位された。大阪府の難波に都を造られ、これを『高津宮・たかつのみや』といった。その宮殿は白く上塗りせず、垂木や梁・柱・うだつに装飾を施さず、茅で屋根を葺いても茅の端を斬り揃えることをなさらなかった。

四年春二月、己未朔。甲子、群臣に詔して日わく。

朕高臺に登りて遠く望むに烟気域中に起たず。以為うに、百姓既に貧しくて、家に炊ぐ者無きか。

▲仁徳天皇の御代四年の春二月六日に、群臣に詔して『私が高殿に登って遠くを眺めると、あたりの家から煙が起こっていない。考えてみると、人民が貧しくなって、家に食事の支度をする人が居ないのであろうか。』

三月、己丑朔。己酉、詔して日わく、自今之後、三載に至るまで、悉に課役を除めて、百姓の苦を息えよと。

▲三月二十一日に詔して『今から三年間の間は、全ての課税を止めて、人民の苦しみを救いなさい』とおっしゃった。

是を以て、宮垣崩るれども造らず、茅茨壊るれども葺かず。風雨隙に入りて、衣被を沾し、星辰壊より漏りて牀蓐を露にせり。

▲これによって宮殿の垣は壊れても繕わず、屋根の茅が崩れても葺かない。雨風は隙間から殿内に入ってご衣裳や衾(ふすま)を濡らし、星の光は屋根の壊れ目から屋内に漏れ入って、床や敷物を照らしている。

是の後、風雨時に順いて、五穀豊穣なり。三稔の間へて、百姓富寛なり。頌徳既に満ちて、炊烟亦繁し。

▲この後に、風雨は度が過ぎることもなく、五穀は豊穣となった。三年の間に人民は豊かになり、仁徳天皇のお徳を称える声は天下に満ち満ちて、土地には炊飯の煙が多く棚引いた。

十年冬十月、甫めて課役を科せて、宮室を構造る。是に於て百姓領されずして、老を扶け幼を携えて、材を運び簀を負い、日夜と問わずして、力を竭して争い作る。是を以て幾時も経ずして、宮室悉に成りぬ。故れ今に聖帝と称めまおす。

▲仁徳天皇の御代十年の冬十月に、やっと課税しなさって、宮室を造られた。そして人民は、自ら進んで老人を労わり、幼い子供の手を引いて、木材や土を運ぶ籠を背負い、昼も夜も競い合って働いて作った。そのため、まだいくらの時も経たないうちに、宮室はすっかり出来上がった。

それゆえに今でも、仁徳天皇を聖帝(ひじりのみかど)と称え申し上げるのである。

八十七年春正月、戊子朔。癸卯、天皇崩りましぬ。冬十月、癸未朔。己丑、百舌鳥野陵に葬しまつる。

▲仁徳天皇の御代八十七年の春正月十六日に、仁徳天皇は崩御されました。同年の冬十月七日に百舌鳥野の陵に葬られました。

百舌鳥野陵(仁徳天皇陵)